

後援会事業実施報告書

佐々木 啓

歴史・文化遺産コースの日本近現代史ゼミでは、毎年夏に日本国内の史跡や博物館などを見学する、ゼミ合宿を行っている。ゼミ合宿の行先は、昨年度の合宿や今年度のゼミ活動の内容をもとに4年生が決め、具体的な計画は3年生が立てて実行するのが例年の慣行になっている。日本全国に残る近現代史上の史跡や博物館等での展示内容を、時間をかけて見て回ること、机上での研究ではなかなか得られない、リアルな歴史の実態を学ぶことができる、貴重な機会である。

今年度は、9月18日～21日の日程で北海道に行くことを計画していたが、直前に起こった北海道胆振東部地震を受けて予定を変更し、同19日～21日に岩手（盛岡、花巻）と宮城（仙台）で合宿を行った。参加したのは、ゼミ担当教員1名と、院生5名、4年生4名、3年生4名、研究生1名、合計15名であった。

合宿初日（9月19日）は、午後1時に盛岡駅に集合し、ホテルに荷物を置いた後、盛岡市内を散策し、もりおか啄木・賢治青春館、盛岡てがみ館、岩手銀行赤レンガ館を見学した。てがみ館では、企画展「米内光政の手紙～良識の提督の生涯～」が開催中であり、米内光政の生涯とその歴史的役割について、実際の史料を見ながら思索を深めたり、感想を交流したりすることができた。

二日目（9月20日）は、まず午前中に、原敬記念館と岩手県立美術館を見学した。「平民宰相」として知られる原敬の史料については、昨年度の日本近世近代史史料講読演習Ⅳで扱ったところでもあり、研究書や論文、あるいは史料から見えて来る原の姿と、「地元」で捉えられている原のイメージとを比較しながら考えを深める機会となった。昼食に盛岡冷麺を食べた後、花巻に移動し、花巻新渡戸記念館と宮沢賢治記念館、宮沢賢治イーハトーヴ館を見学して、宿のある仙台へと向かった。

三日目（9月21日）は、あいにくの雨であったが、午前中に仙台市歴史民俗資料館とその周辺にある戦争遺跡を見学した。水戸に陸軍の歩兵第二連隊があったのと同様、仙台には陸軍の歩兵第四連隊があり、この地域の近代史を考える上では重要な題材となっている。午後は、苦竹にある自衛隊仙台駐屯地の「防衛館」に向かい、戦後における自衛隊の歴史や現在の活動状況についての展示を見学した後、仙台うみの杜水族館を見学して、16時頃に仙台駅で解散した。

例年にも増してハードなスケジュールとなったが、岩手や宮城の近現代史に関わる貴重な史料や史跡、展示を見ることができ、ゼミ生にとっては充実した合宿になったのではないかと思います。ご支援をいただいた人文社会科学部後援会に、改めてお礼申し上げます。

